

子供

「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる」(サッチャー)

- ◆ 三鷹の森学園3校、約1500名の子供たちは、「三鷹『学び』のスタンダード」に掲げられた「6つの学習習慣」を基盤に学習に取り組みます。

6つの学習習慣

1. 先生の問いかけや友達の発言をよく聞き、大事だと思ったことはノートなどに書き留めよう。
2. 自分の考えをもち、他の意見に興味を示し、よりよい考え方や方法などを協働的に学ぶコミュニケーション能力を高めよう。
3. 考えたり、調べたりしたことを文章や絵・図などに表し、相手に伝わりやすい説明を工夫しよう。
4. 分からないこと、できないことはそのままにせず、自分で調べたり、先生に質問したりしよう。
5. いつ・何を・どんな方法で学ぶのか、自分自身で決めて取り組み、その結果、「何ができるようになったのか」を確認しよう。
6. 学習内容の要点を自分自身で整理したり、他教科とのつながりを考えたりしながら学習に取り組もう。

※6つの学習習慣は「三鷹『学び』のスタンダード」にアクティブラーニングの要素を加えて作成してあります。

学校

「進みつつある教師のみ人を教うる権利あり」(ディーステルエッヒ)

- ◆ 三鷹の森学園3校、約110人の先生が、共通のねらい、共通の学力観に立って
9年間の学習指導を進めます。

小1から小4

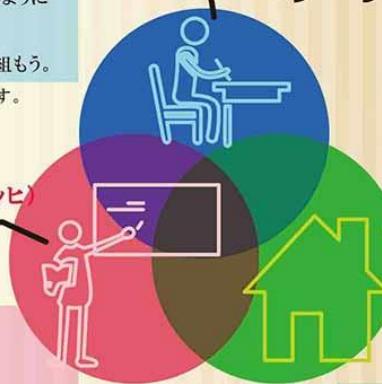
- ・話をよく聞き、話題の中心や自分の考えとの共通点を見付けることができるか。
- ・ノートの基本的な書き方を覚え、学習したことをまとめることができるか。
- ・図書館などを活用し、疑問に思ったことを自ら調べようとしているか。
- ・言葉や文章・絵を用いて、自分の思いや考えを進んで表現できるか。
- ・相手や場に応じた発言・発表・聞き方・応答の仕方ができるか。
- ・テストの間違いを見直し、分かるまで、できるまで復習に取り組んでいるか。

小5から中1

- ・話を共感的に聞き、自分の考えとの共通点や相違点を見付けることができるか。
- ・板書をノートに写すだけでなく、自分の言葉で学びのまとめができるか。
- ・図書館や検索機器を活用したり、先生に質問したりしながら、問題を解決しようとしているか。
- ・事実と意見を意識して、自分の考えを書くことができるか。
- ・ペアの意見交換やグループ協議で自分の考えを明確に伝えることができるか。
- ・予習－授業－復習の学習サイクルを計画・実行し主体的に学習ができているか。

中2から中3

- ・聴写し、簡潔なメモをもとに自分と他の考えを比較検討することができるか。
- ・板書の記録に止まらず、要点を整理しながら考える態度が身に付いているか。
- ・図書館や検索機器を活用したり、先生に質問したりながら、探究的な活動に取り組んでいるか。
- ・意見－理由－事例－結論などの論理的な文章が書けるか。
- ・ペアやグループでの協議を通して、互いの考えを尊重しながら、合意形成したり新たな視点を構築したりする姿勢が見られるか。
- ・習得－活用－探究の学習プロセスを計画・実行し、主体的に学習ができているか。



三鷹の森学園コミュニティスクール委員会

「三鷹『学び』のスタンダード」の実現を目指して 「小中一貫・三位一体」で取り組む アクティブ・ラーニング

家庭

「よき親は100人の教師に値する」(ヘルバート)

- ◆ 家庭は、子供の健やかな育ちの基幹であり、すべての教育の出発点です。
生涯にわたり学び続ける子育てについて共に考えましょう。

小1から小4

- ・ノートによく目を通して、親からも前向きな一言コメントを書き加えてあげましょう。
- ・夏休みなどの自由研究で目標をやり遂げる経験をさせ、達成感を味わわせましょう。
- ・子供の話すこと、することに大いに興味を示したり、共感したりしましょう。
- ・辞書、事典を手元におき子供と一緒に調べたり考えたりする時間を意図的に持ちましょう。
- ・学習用具の準備と日々の読書は、学びの基本となるので習慣化するよう努めましょう。

小5から中1

- ・ノートを見て質問をするなど、親が子供の学習内容に興味を示しましょう。
- ・夏休みなどの達成感の高い自由研究を成功させる仕掛けづくりをして充実感を味わわせましょう。
- ・よい聞き手、よい問い合わせ手になるよう心がけましょう。
- ・「三日坊主」と嘆く前に、初めの3日間、誓めたり励ましたりすることを心がけましょう。
- ・「ファミリー・イベント新聞」など家族一人一人の取り組みや情報を共有するコーナーを設けてみましょう。
- ・予習や復習など自主的に行っていける姿を誉めたり認めたりしましょう。

中2から中3

- ・メモ帳やスケッチブックなどを持たせて、気付きや疑問を記述する習慣を身に付けさせましょう。
- ・手帳を持たせてスケジュールの確認などの機会に、家族談話を楽しみましょう。
- ・新聞などを活用して社会問題、社会事象などについて意見交換や関連する身近な情報交換をしましょう。
- ・家庭での対話は結論を導き出すことではなく、子供を知る貴重な機会ととらえましょう。
- ・身近な知人の仕事やボランティアを話題に生き方について語り合いましょう。